

## 令和4年度 第4回大山崎町社会教育委員会議（報告）

- I 日 時 : 令和5年2月24日(金) 午後2時~同3時30分
- II 場 所 : 大山崎町役場 3階 中会議室
- III 出席者 : 15名
- 出席委員（5名）
  - 事務局（10名）  
教育長・教育次長・学校教育課長・生涯学習課長・中央公民館長・歴史資料館長・文化芸術係総括主幹・体育館長・生涯学習スポーツ振興係員2名
- IV 会議名 : 令和4年度第4回大山崎町社会教育委員会議
- V 内 容 : 以下のとおり

### 【要点】

2件の議題（(1) 令和4年度社会教育委員関係事業報告について、(2) 令和4年度生涯学習課関係事業報告について）について、審議のうえ、いずれも承認された。

また、事務局から3件の報告を行った。

なお、傍聴希望者はなかった。

- |           |     |
|-----------|-----|
| 1 開 会     | 事務局 |
| 2 教育長あいさつ | 教育長 |
| 3 委員長あいさつ | 委員長 |

※ 大山崎町社会教育委員会議運営規則による会議成立の宣言（定足数を満たす5名の委員の出席を確認）

### 4 議 題

※ 以降の進行は委員長が担当

- (1) 令和4年度社会教育委員関係事業報告について 事務局  
事務局から 11月から1月までの町社会教育委員に関係する事業実績及び前週2月17日に開催された第2回乙訓社会教育委員等連絡協議会研修会について報告

\*質疑応答

<社会教育活動実践交流フォーラム・京都府社会教育研究大会について>

委員

私にとっては大変難しい内容の講演でした。オールラウンド型事業への転換やピンポイント型事業、ニッチ型事業などと言われたのですが、言葉の意味がさっぱり分かりませんでした。最後のふるさとプラットフォーム事業だけは分かり、若者を中心にして集まり、語り合い学び合う場を持つということと、公民館や社会教育関係者が中心になってまちづくりワークショップを行うというものでした。社会教育委員としては、心の繋がりが大切であって、社会教育委員以外の皆さんと仲間を大事にして交流したらどうかというお話でした。

委員

外国語ばかり出てきて、同じように感じました。我々を対象にした分かりやすい講演内容にしてほしいなというのが正直なところです。

委員

「コロナ禍から見えてきた新しい学びの形」というタイトルでしたが、地域の活性化をボランティアだけではなく、ビジネスと上手く絡ませることにより、結果として持続可能にするということでした。どうしてもボランティアだけということになると、最初に気持ちがあっても、経費などが負担になり、続かなくなってしまうこともあるので、ビジネス的な要素を取り入れるということが大事だと話されていたように思います。

事業者が目指す形として、社会貢献も考えながらどうやって利益を生んでいくかを考えていかないといけない時代ではないかなと感じました。

委員

いわゆるカタカナ語がいっぱい出て来て、最初は分かるように思っていたのですが、だんだん分からないようになってきたというのが正直なところです。

要点だけになりますが、人生 100 年時代の課題として、「青少年活動はどうなるのか」、「壮年の学び直しの取り組みと育児支援」、「高齢者の人生 100 年時代への対応と健康寿命の担保」の三点を挙げられていました。結論として「強い心と身体をつくること」と言われ、その通りだと思いましたけれども、ちょっと説明と結論が結びつかない部分も感じました。「持続可能な地域コミュニティ形成に向けての挑戦」というお話では、「地方だから、あるいは小さい町だから」という意識から脱却すること、大きな学習目標として「健康」、「次世代の人材育成（育児や介護）」、「地域課題の認識と共有化」が重要とのことでした。

また、当日、「変化する社会における社会教育の役割～持続可能な魅力ある地域を目指して～」という題でパネルディスカッションが行われました。私は自分の住む地域を振り返って、魅力ある地域にするにはどうしたらいいのか、今の高齢化などの実態について発言させていただきました。他の地域はそれぞれ「こんなことをやっています」という内容でしたが、残念ながら話すことができる内容がありませんでしたので、私の住む地域の抱える課題について率直に話させていた

できました。

委員

他所の方が「こんなことをした」「あんなことをした」ということをおっしゃっていたので、「大山崎町でもこんなことをしています」という話ができればよかったですなと思いました。

委員

私は、現実的な課題としてなるほどと思って聞かせていただきました。他の地域の方のお話は、ちょっとよいところだけを発表されている印象を受けましたが、高齢化や近所付き合いの希薄化といったお話から今の社会の根底にある課題を実感しました。

委員

大山崎町は小さい町なのですが、その中でも少し地域差というか、若い方が入って来られている地域もあるので、地域の情報を吸い上げる場があってもいいのかなという気はしました。国全体が高齢化し、実際に過疎化している地域がある中でも、まだまだ大山崎町は若い人たちが入りやすいような情報や魅力を発信すれば、若い人が住みたくなる町になる可能性があるのではないかと考えています。町役場として町の魅力を発信し、若い方の流入があれば、高齢の方にも刺激があってもいいのではないかと感じました。

委員

丹後地域では、IターンUターンで戻ってきたら、農業できる土地があり、漁業できる海があって、何か仕事ができるので帰って来るといってお話がありました。大山崎町の私の住む地域には、帰って来て何があるのだろうかと思うとやはり違うし、空き家を改築して新しい方が入って来られても「自治会には入りません」と言われてしまう。山城地域では、必要ないと言う方が多いためPTA活動ができない可能性があるという学校の例の報告もあり、大変だなと思って聞いておりました。

地域づくりと言いながら、それぞれ抱えている地域の実情が異なるので、地域を活性化する繋がりをどうやってつくるのかということが、私たち社会教育委員の役割かなと感じました。また、各地域の取組にそのためのヒントはあったと思います。

## <第2回乙訓社会教育委員等連絡協議会研修会>

委員

実習で、コロナ禍のため延期になっていてようやく実現したという京都府災害派遣福祉チーム（京都DWA T）による避難所運営ゲームに参加させていただきましたが、皆さんはどうお感じになりましたか。

委員

よかったと思います。最初は勉強不足で意味が分からなかったのですが、避難

時にこういう状況になったら、こういうところが抜け落ちているのだなというところが見えてきました。ただ、机上であったので、これが本当に緊急事態になった時に冷静に判断できるのかなという不安も感じた実習でした。

#### 委員

4人から5人ぐらいのグループに、例えば避難者が何歳だとか、ペットを連れて来ているとか、車で避難されたとかいう情報のカードを配られ、避難所のどこに入っていたか相談して決めていくのですけれども、余りにも急過ぎて、予備知識のない人間には難しく、トラブルの原因になるだけだと感じました。まずは避難所の組織づくりから始めていかないと混乱が起こると思います。ゲームはゲームとして意味はあり、気を付けなければいけないことはよく分かったのですけれども。

#### 委員

災害時には、京都DWA Tの方以外にいろんな方が来てくださると思うのですね。私の知っている方ではYMCAの方も被災地へ支援に行かれるそうです。最終的にその方々をまとめてくださるリーダーが必要だと思います。それが行政の方なのか分かりませんが、そのリーダーの下でみんなが動かないとバラバラになってしまうのかなと感じました。

#### 委員

避難所になるのは、学校や公民館、地域によっては企業の倉庫のようなところも考えられるのですけれども、今回の避難所運営ゲームは、「停電、ガス遮断、水道断水、電話は時々通じ、メールは遅れて届く、避難所の体育館は耐震化済み、先生や事務職員の一部は登校している、近くの集合住宅には高齢者世帯や身体障がい者が多い、小学校までの経路に坂や段差がある、気温は7度、強い季節風が吹いている」といった条件でした。そういう状況で、100人ぐらいの避難者が続々避難して来ており、その中には高齢者や乳幼児、妊婦、車椅子の方、外国人、車で避難してきた人もいて、順次避難所に入れる必要があるけれども、誰がどう対応していくのか。そういうことを考えながら、迅速に対応しなければいけない。自主防災会とか民生委員とか学区社会福祉協議会の役員など、そうした人たちで避難所を適切に運営する必要があり、その一員として加わるというゲームでした。

実際にやってみると判断に迷うことがたくさんありました。重度の障がいのある方や妊娠中の女性、喘息持ちの子どもや多動性で夜中に声を発して周囲に迷惑を掛けるかもしれない子ども。次から次にいろんなケースが出て来て、本当に難しいと感じましたが、5人ぐらいのグループで対面だからこそできるのですが、お互いの意見を出し合いながら進めました。

先ほど紹介した『社教情報』の中に、宮城県成田中学校の例が載っていました。成田地域は、昼間はほとんど大人がおらず、自主防災組織はあるけれども全く機能しないで混乱を極めたという経験から、町内会では日中でも地域にいる中学生の存在に注目して、中学校と地域をつなぐことはできないか試行錯誤されている

ということでした。このような取組をされている地域もあるのだなと思って読みました。

その他、京都市西京・南部地域包括支援センターの中平センター長が講演されました。地域のコミュニティ力を高め、個別の避難計画を作る必要があるという内容でした。普段、どれぐらい災害時を考えて生活しているかということが大事であり、普段の生活でできていなことは非常時でもできないと話されていました。

#### <第44回全国公民館研修会和歌山大会>

##### 委員

記念講演は、鍼灸師をしながら腹話術ボランティアとして地域で活動されている方でした。

分科会については、京都府に入りました。舞鶴市の多世代交流施設「まなびあむ」の方が発表されましたが、その中で、普通の公民館ではなくて、1階にはカフェや農協も入っており、2階・3階が会議室、4階は簡易ホテルになっているということでした。舞鶴市の市民病院跡に建てられ、地方創生交付金を活用して約9億円かかったそうです。まだ新しいので、手探りで一生懸命頑張っておられる様子を伺いました。今度舞鶴に行ったらちょっと泊ってみようかなと思いました。

##### 委員

私も第2分科会に参加させていただきました。その中で、公民館に関心のある人とない人の大きく二つに分けられて、一般市民の大体7割から8割ぐらいは無関心ではないかというお話がありました。公民館の潜在的な非利用者層は公民館へ足を運ぶ目的や動機がない人、出不精な人、他人と集い交流するのが面倒と思う人、自分は教養がないからと公民館は関係がないと考える人がいて、そういう人たちにどのようにして働きかけたらいいのかということについてお話されました。正規職員は3名だけで運営されているとのお話があったときには、和歌山ではすべてボランティアで公民館を運営しているという意見の交流もあり、地域の違いを感じました。やはり貸館業務が多いようですけれども、営利事業にも開放し使用料を徴収されているということでした。

#### ◎各委員が承認

#### (2) 令和4年度生涯学習課関係事業報告について

事務局

事務局から11月から1月までの生涯学習課関係の事業実績について「生涯学習・スポーツ振興係」、「体育館」、「文化芸術係」、「中央公民館」、「歴史資料館」の順に報告

#### \*質疑応答

<中央公民館「子ども防災キャンプ」(1月22日開催)について>

委員

1月22日の「子ども防災キャンプ」は、こういった内容でしたでしょうか。

事務局

まず町役場の防災担当者から簡単な説明の後、防災士の講師を招きまして、おうちで避難生活するというテーマで行いました。おうちで災害に遭って電気・ガスが止まった時に、「パッククッキング」と言っておうちにあるカセットコンロを使って米を炊いたり、野菜を煮たり、他にも簡易トイレの使い方や100円ショップの材料を使った寒暖対策など、おうちで避難生活する想定 of 防災キャンプに親子で参加していただきました。持ち帰って他の家族に伝え、お友だちでも話し合っていて、防災意識を高めていただくというのが今回の狙いでした。

委員

参加者は親子で4名ですか。ちょっともったいないですね。

事務局

参加申込は8名ありましたが、当日のキャンセルがあり、参加者は親子で4名でした。館からの周知不足もあったかもしれないですが、この事業は開催する時期が難しく、過去には防災意識の高い9月に計画していたのですが、台風のため何度か延期や中止になったため、今回は台風シーズンを外して1月に開催しました。しかし、やはり防災意識が高いのは夏休みから9月の防災の日前後ということで、振り返って開催時期を再検討する必要があると考えています。

<開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査について>

上田委員

円明寺が丘バス停付近で開発が行われていて、ドラッグストアが建つそうですが、「脇山遺跡」に当たる場所でしょうか。何も出てこなかったのでしょうか。

事務局

その通りです。開発に伴って発掘調査する場合には、立地条件や建物の規模等によって地盤造成の方法が異なるのですが、建設にあたっては造成方法や建物の基礎をどれくらい深く入れるかという計画を示していただきます。その範囲で文化財が出てくるようであれば、工事によってそれが壊れますので、その場合は調査をすることになります。今回の場合は、試し掘りしたのですが、その範囲では遺跡が確認できず、工事のため遺跡がつぶれてしまうという危険は認められなかったもので、試掘調査のみで終了しました。

「脇山遺跡」は、その西側の府営住宅の建設の際に、京都府が調査を実施して、弥生時代と縄文時代の遺跡が出てきたのですが、そこはもともと平場に近い場所でした。今回はそこから東側に向けて斜面になっていく箇所なので、隣接はしているのですけれども、傾斜地には遺跡の痕跡としては認められないという実態を

反映しているものと考えています。

◎各委員が承認

※ これ以降の進行は事務局が担当

- 5 その他 事務局  
事務局から次の3件について報告
- ① 町議会定例会（12月）における一般質問・答弁について（生涯学習課関係）
  - ② 放課後児童クラブの運営について
  - ③ 令和5年度当初予算について（生涯学習課関係）
- 6 閉会あいさつ 副委員長